

US で経過を追えたセフトリアキソンによる偽胆石症の1例

◎花田 理子¹⁾、高橋 智子¹⁾、齊藤 薫¹⁾、板垣 史代¹⁾、岡部 美恵¹⁾
社団法人 北海道勤労者医療協会 勤医協札幌病院¹⁾

【はじめに】セフトリアキソン(以下 CTRX)とは呼吸器感染症や消化器感染症など、多くの細菌感染症の際に使用される抗生物質である。副作用として偽胆石症が知られており、まれに腹痛や吐気などの症状をきたす。今回 CTRX 投与による偽胆石症の経過を US により追うことができたので報告する。【症例】90 歳代男性。既往歴は心筋梗塞・右上葉肺癌・高血圧・慢性腎臓病。発熱と倦怠感を訴え当院受診。胸部 CT 検査で胸水と右肺上葉に気腫性変化を伴う陰影を指摘され、右上葉肺炎疑いで入院加療となった。同日施行された US では右胸水を指摘した。【経過】肺炎治療のため CTRX (2g/day) 点滴静注を開始。投与開始から 8 日目の血液検査で肝機能異常を認めた。投与開始から 10 日目、薬剤性肝障害疑いで US 施行。胆嚢内に音響陰影を伴う debris と拡張した胆嚢管内に結石 2 個を指摘した。入院前の US では胆嚢・総胆管には所見が無かったため、CTRX 投与に伴う偽胆石症による肝障害と診断された。その後腹痛の症状が出現したため、他剤内服に変更。偽胆石症については血液データ・US での経過観察となった。

CTRX 投与中止後 6 日目の US では、胆嚢・総胆管・総肝管に debris を指摘。中止後 12 日目には、胆嚢・総胆管中～下部に debris はあるものの、総肝管の debris は消失。中止後 19 日目には、胆嚢・総胆管下部に debris は少量あるが、全体的に改善傾向を示し、血液データについても肝機能は徐々に改善が確認された。その後、転院でフォローは終了。

【考察】本症例は当初腹痛などの症状に乏しく、定期の血液検査で肝機能障害が指摘され、スクリーニング US の所見によって診断に至ったものである。また、その後の経過も経時的に US で観察することができた。CTRX による偽胆石症の多くは、薬剤中止により自然消失するとされているが、まれに急性胆嚢炎や急性膵炎などの合併症が生じることがある。合併症が現れた場合には、手術を含めて通常の胆石症同様に適切な処置が必要となるため、血液検査や US 等の画像検査での経過観察が重要となる。

【まとめ】侵襲性なく簡便に施行できる US が、偽胆石症の診断および経過観察に有用であった。
連絡先：011-820-1656